

事業名：地域や関係機関と連携した防犯教育公開事業（学校安全総合支援事業）
 モデル地域：銚子市高神小学校近隣地区 拠点校：銚子市立高神小学校

所轄教育委員会：銚子市教育委員会

1 モデル地域の現状及び安全上の課題

(1) モデル地域の現状
 ○モデル地域名：銚子市高神小学校近隣地区
 ○学校数：小学校 1 校 中学校 1 校
 (2) モデル地域の安全上の課題
 地域住民や保護者の協力により、登下校の付き添いが行われているが、地域住民の高齢化に伴い、今後の継続が課題である。安心・安全な環境の再構築や児童生徒自身に自分の身を守る判断力や行動力を身に付けさせることが必要である。

2 モデル地域の事業目標

- ・児童生徒が防犯教育を通して地域の防犯上の課題を理解するとともに、危険予測・回避能力を身に付け、自分の身を守るために適切な判断や行動ができるようにする。
- ・学校、家庭、地域、関係機関がそれぞれの役割を明確にし、地域の特性に応じた学校安全体制を構築する。
- ・拠点校がモデル地域内の学校と連携しながら事業の取組や成果を発信することで、市内全校の防犯教育への意識を向上させる。

3 取組の概要

実施時期	実施事項	参加者
6 月	○第 1 回合同推進委員会への参加	市教委・拠点校職員
8 月	○第 1 回実践委員会	実践委員
9 月	○第 1 回防犯教室	拠点校職員・

	○校内研修	学校安全アドバイザー 拠点校職員・モデル地域内学校職員・学校安全アドバイザー
	○第 2 回防犯教室	拠点校職員・学校安全アドバイザー・学生ボランティア
	○第 3 回防犯教室	拠点校職員・学校安全アドバイザー・学生ボランティア
10 月	○第 2 回実践委員会 ○第 4 回防犯教室	実践委員 拠点校職員・学校安全アドバイザー・学生ボランティア
	○第 5 回防犯教室	拠点校職員・学校安全アドバイザー・学生ボランティア
11 月	○第 3 回実践委員会 ○公開授業・全体会	実践委員 県教委・市教委・拠点校職員・県内教職

2 月	○第 2 回合同推進委員会への参加	員・学校安全アドバイザー・学生ボランティア 市教委・拠点校職員
-----	-------------------	------------------------------------

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

(7) 実践委員会における情報共有

8 月、10 月に実践委員会を開催し、拠点校の取組状況の説明、情報交換等、防犯教育に係る地域の状況や学校の取組について情報共有を図った。

<実践委員>

学校安全アドバイザー（千葉科学大学危機管理学部危機管理学科准教授）、北総教育事務所海匝分室指導主事、銚子市教育委員会指導主事、高神地区社会福祉協議会主任児童委員、高神小学校運営協議会委員、高神地区青少年相談員、第二中校長、高神小 P T A 会長、高神小校長・教頭・教務主任・研究主任・安全主任

(イ) 研修会の開催

モデル地域内の教職員を対象に学校安全に関する研修を実施した。

日 時：令和 6 年 9 月 6 日

講 師：千葉科学大学名誉教授
船倉 武夫 氏
千葉科学大学 准教授
五十嵐 仁 氏

テーマ：学校危機管理について

参加者：高神小職員、第二中職員

参加人数：14 人

(ウ) フィールドワークの実施

拠点校周辺の「危険な場所」や「安全な場所」を確認した。

日 時：令和 6 年 9 月 10 日

令和 6 年 9 月 13 日

令和 6 年 10 月 8 日

令和 6 年 10 月 23 日

内 容：拠点校周辺の通学路をグループ毎に歩き、「危険な場所」「安全な場所」について確認した。学校安全アドバイザーの五十嵐仁准教授の専門的な助言をもとに、地域安全マップを作成した。

参加者：銚子市教育委員会、高神小 4 年生児童・関係職員、学校安全アドバイザー、千葉科学大学学生ボランティア

参加人数：28 人

(I) 公開授業の開催

モデル地域内の拠点校を会場に、公開授業を実施した。

日 時：令和 6 年 11 月 29 日

テーマ：タウンパトロール
～地域の安全を

調査しよう！～

内 容：フィールドワークで得た情報を整理した「地域安全マップ」を活用し、4 年生が地域の危険な場所や安全な場所の特徴、危険から身を守る方法について 3 年生に発表し、情報共有を行った。

参加者：千葉県教育委員会、北総

教育事務所、松戸市教育委員会、匝瑳市教育委員会、銚子市教育委員会、高神小児童、北総教育事務所管内教職員、地域の方

参加人数：81人

(オ) 講演会の開催

学校安全に関する講演会を実施した。

日時：令和6年11月29日

講師：千葉科学大学 准教授
五十嵐 仁 氏

テーマ：危険を予測して、自らの身を守る力の育成

内容：自分の命を守る力を育むため、過去の事例を振り返り、学校関係者が取り組むことについての講話をいただいた。主な内容については、以下の8点である。①身の回りの危険について学ぶ機会の設定②リスク管理された中で体験できる機会の設定③リスクを発見する練習機会の設定④リスクに対応する反復指導⑤ロールプレイ学習の設定⑥リスクのマッピング⑦地域連携⑧クライシスマネジメント

参加者：公開授業時と同じ
(児童は除く)

参加人数：42人

(カ) 学校安全アドバイザーの活用

千葉科学大学

危機管理学部危機管理学科

准教授 五十嵐 仁 氏

派遣校数 1校 派遣回数 6回



イ 安全教育の取組の評価・検証について

(ア) 学校安全アドバイザーによる評価

学校安全アドバイザーの千葉科学大学危機管理学部危機管理学科五十嵐仁准教授より、安全教育の取組について、地域安全マップ作成に向けたフィールドワークの取組は効果的であり、今後も継続したほうがよいという助言及び評価をいただいた。

(イ) 銚子市の成果指標

- a 学校の安全管理や緊急時の対応方法について、見直しや共通理解を図っている学校の割合は、事業実施前と同様に100%を維持した。
- b 地域安全マップや危険箇所マップの作成や見直しが行われている学校の割合は、事業実施前と比較して5校増加し、82%となった。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

ア 危険予測能力や回避能力を高めるための防犯安全学習の充実

・発達段階に応じた授業内容の工夫

- ・専門的な知識をもった地域関係機関との連携
- ・見る、聞く、体験する等の防犯体験学習を重視した授業展開の工夫

イ 日常的な防犯安全指導

- ・集団登下校の実施（交通安全推進隊による見守り活動）
- ・防犯教育の内容について、実態に応じた継続的な声かけと指導
- ・学校図書館司書による防犯絵本の読み聞かせや防犯意識を高める作品作り

ウ 定期的な防犯安全指導

- ・防犯ブザーの点検
- ・不審者対応訓練（警察署との連携）
- ・縦割り班での防犯カルタの実施

エ 地域や保護者への発信

- ・防犯授業参観の実施
- ・学校だよりや学年だよりなど各種便りによる啓発
- ・地域へのオリジナル防犯ステッカーの配付

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質能力の向上に係る取組について

- ・モデル地域内の学校は、学校安全に関する研修会を合同で実施した。
- ・拠点校は、公開授業の全体会において防犯教育の実践や安全マップの作成など、これまでの取組を発表した。市内小中学校から中核となる教職員は全体会に参加するとともに情報交換を行った。
- ・銚子市教育委員会は、市内各校の危機管理マニュアルの作成状況を点検

し、指導助言を行った。

(4) その他の取組について

ア 「薬物STOP大作戦」

日 時：令和6年9月6日

実施学年：6年生

内 容：体験ツールを使用し、薬物の危険性について学び、勧められたり、誘われたりしても絶対に危険薬物を使用しない意思を持つこと、誘惑に負けず、健康な生活を送ることを確認した。また、危険を回避するための方法を話し合うことで防犯に関する意識を高めた。



5 取組の成果と課題

【成果】

- ・発達段階に応じた防犯教室や地域の安全マップづくりは、児童の危険予測・回避能力等の防犯意識を高めることにつながった。
- ・実践委員会で拠点校の取組について共有・協議することは、学校や地域の役割を確認することができ、組織的な安全体制の構築につながった。
- ・公開授業後の全体会で事業の取組や成果を発信することは、各校における防犯教育の参考になるとともに職員の意識の向上にもつながった。

【課題】

- ・児童が防犯教育で身に付けた力を維持、伸長できるように継続した指導を行う

必要がある。

- 学区の境目や学区外など目が届きにくい場所については、他校や地域、関係機関とも協働して対策を進める必要がある。